

# ヴィオラとピアノで紡ぐシューベルトの歌曲の世界!

2021年

11月23日(火)

13:30 開場/14:00 開演 入場料:会員4,500円(座席指定可)/  
一般5,000円/学生2,500円(全席自由席)

柔らかさと歌謡性が特徴的な"うた"を  
安達真理のヴィオラで表現 現代随一の  
シューベルト弾き、佐藤卓史を招いて  
現代のシューベルトティアーデをー

佐藤卓史

安達真理

## オール・シューベルト デュオリサイタル

### 佐藤 卓史 (SATO Takashi) Piano

2007年シューベルト国際コンクール優勝後、世界各地での演奏活動を通して"現代随一のシューベルト弾き"の評価を確立。2014年開始の「佐藤卓史シューベルトツクルス」ではシューベルトのピアノ曲全曲演奏に取り組む。

日本音楽コンクール第1位、エリザベート王妃国際コンクール入賞、カントゥ国際コンクール第1位など受賞多数。内外のオーケストラと共演、また録音・作編曲・室内楽など幅広い分野で活動している。

[www.takashi-sato.jp](http://www.takashi-sato.jp)



### フランツ・シューベルト:

糸を紡ぐグレートヒェン D118

ここにあったことを D775

夜と夢 D827

アルペジオーネ・ソナタ D821 イ短調

白鳥の歌 D957より第8曲 アトラス

第4曲 セレナーデ

秋 D945

4つの即興曲 D899より 第3曲 変ト長調(ピアノソロ)

冬の旅 D911より第1曲 おやすみ

第5曲 菩提樹

第11曲 春の夢

第24曲 辻音楽師

\*プログラム等は、やむを得ない事情により変更になる場合がございます。

### 安達 真理 (ADACHI Mari) Viola

ソリスト、室内楽奏者として幅広く活動するなか、4月より日本フィルハーモニー交響楽団客演首席奏者に就任。

2013年からインスブルック交響楽団にて副首席奏者を2年間勤め、2016年からはパーヴォ・ヤルヴィ氏率いるエストニア・フェスティバル管弦楽団にも参加。

8月にバッハの無伴奏作品を収録したアルバム(T-TOC RECORDS)をリリース。

オフィシャルサイト

<https://www.mariadachi.com/>

123  
Mitake Sayaka Salon (vol.97)



# 安達真理 & 佐藤卓史

## オール・シューベルトデュオリサイタル ヴィオラとピアノで紡ぐシューベルトの歌曲の世界!

2021年

11月23日(火)

13:30 開場/14:00 開演

入場料:会員4,500円(座席指定可)/  
一般5,000円/学生2,500円(全席自由席)

柔らかさと歌謡性が  
特徴的な「うた」を  
安達真理のヴィオラで  
表現

現代随一の  
シューベルト弾き、  
佐藤卓史を招いて  
現代の  
シューベルトアイデアを

「シューベルトティアーデ(Schubertiade)」という言葉をご存知でしょうか。当時、シューベルトの友人たちの自宅サロンで、シューベルトを囲んで開催されたコンサートのことを称します。

シューベルト(1797~1828)の没後約200年の時を経た現代でも、彼の作品を愛し、研究する奏者によって、その作品の素晴らしさをシューベルトティアーデとして再現されています。

今回は、まさに当時の「シューベルトティアーデ」を彷彿とさせるような、サロンコンサートが実現します。

シューベルトの柔らかさと歌謡性が特徴的な「うた」を表現するのは、ヴィオリスト安達真理氏。彼女の表現力の高さには定評があり、その演奏によってヴィオラの魅力に開眼したという話をよく耳にします。

そして、あたたかく溶け合うような音色やハーモニーでその作品を照らすピアニストは、「現代随一のシューベルト弾き」の評価を確立している佐藤卓史氏。

驚くべきことに、彼の風貌は、まるで和製シューベルトのよう…!彼のシューベルトツイクスを初めて拝聴したとき、シューベルトのどこか迷えるような奥深い森に入っていくような感覚に陥りました。作品を表すために必要な完璧かつ巧みな技からは、シューベルトへの深い敬愛の念を感じられずにはられません。

そんな期待大の二人が、オールシューベルトのプログラムを組むに至った経緯を語ってくださいました。

今回、まさに「サロンらしい」「サロンだからこそ」のプログラムが実現します。お迎えするのは、ピアニストの佐藤卓史さん。「シューベルト弾き」と呼ばれるほど、シューベルト作品への造詣の深い方です(眼鏡もシューベルトを意識して選ばれたそう!)

子供の頃からシューベルトの歌曲を愛し、2007年に開催されたシューベルト国際コンクールで優勝、帰国の翌年から「シューベルトツイクス」をスタート。そんな佐藤さんと『シューベルトティアーデ』をお贈りできることをとても光栄に思っております。(安達 真理)

ヴィオリスト安達真理さんとの「シューベルトの午後」ということで、まずはなんといっても「アルペジオーネ・ソナタ」。一瞬にして歴史の

間に埋もれた楽器「アルペジオーネ」(ウィーンで作られた弦楽器で、ギターとチェロを合わせたようなもの。)に代えて現在ではチェロで演奏されることが多いですが、ヴィオラの機動性の高さはよりオリジナル楽器に近い効果をもたらします。

さらに今回はシューベルトの名歌曲たちをヴィオラとピアノでお聴きいただけます。すでにデビューアルバムで深沢亮子先生と『冬の旅』を共演している安達さん。今回はさらにさまざまな歌曲に挑戦してみよう、ということになりました。

シューベルトは決して神童ではありませんでしたが、歌曲に関しては早熟で、今回演奏する『糸を紡ぐグレートヒエン』はなんと17歳のときの作品。一時期は一日に9曲もの歌曲を書き散らしていたシューベルトでしたが、オペラへの挑戦と挫折、そして病を経験して、一曲一曲にじっくりと向き合うようになります。超現実的な空気を漂わせるリュッケルト歌曲『ここにあったことを』、美しく瞑想的な『夜と夢』は中期の代表作です。そして後半では歌曲集『白鳥の歌』と『冬の旅』を中心に、限りなく孤独でやさしく、どこまでもかなしく透き通ったシューベルト晩年の世界をたっぷりお届けします。

人の声にも似て、その限界を超える潜在力をもった安達さんのヴィオラの音色とともに、シューベルトの真髓「歌曲」の森に分け入っていくことを本当に楽しみにしています。(佐藤 卓史)

シューベルトの音楽は、流動性の中に様々な要素が内在し、想像力を掻き立てられます。

悲しみと喜び、生と死、過去と現実、、、彼は何を思っただけの作品を描いたのでしょうか。まるで私たち聴き手に疑問を投げかけているようにも感じられます。

今回は、シューベルトの代名詞でもあるドイツリートが多く取り入れられたプログラムにも、何か意味深いものが感じられます。

転調のたびに感じられるシューベルトの精神性を、心の赴くままに感じてみませんか。(美竹清花さろん)



日本のトップクラスの若手演奏家が、

こだわり抜いた価値ある企画をお届けしていきます。

美竹清花さろんが追求する“本物の音楽”は、

演奏者と参加者とわたしたちの、

三位一体の努力と対話から生まれます。

大好評につき  
サロン・メンバーズ  
追加募集中!



誕生。  
クラシック音楽サロン、  
宮益坂、  
渋谷駅 徒歩2分

Mitake  
Sayaka  
Salon



●お問い合わせ

株式会社 ILA (美竹清花さろん)

東京都渋谷区渋谷1-12-8 (〒150-0002)

☎ 03-6452-6711 (平日 10:00-18:00)

070-2168-8484 (時間外可)

Fax 03(3409)0188

